

第1章 理念・目的

1. 現状の説明

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

<大学全体>

創立者廣田精一（ひろた せいいち）、扇本眞吉（おうぎもと しんきち）は、社会の第一線で活躍できる技術者を育成し、工業の発展を目指すことを目的として、1907（明治40）年、本学の前身である電機学校を東京神田に創立した。創立時より、「生徒第一主義」「教育最優先主義」「実学尊重」の3つの主義を掲げ、このなかでも特に「実学尊重」については、「電機学校設立趣意書」に「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」と掲げており、この「実学尊重」は本学における建学の精神として、現在まで一貫して実学を重視した教育の礎となっている（資料1-1）。

1949（昭和24）年に新制大学として「東京電機大学」を設立し、初代学長丹羽保次郎（にわ やすじろう）は、「技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければなりません。ですから技術者になる前に「人」にならなければなりません。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです。」と述べ、この「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げ、前述の「実学尊重」と併せて、本学の学部・研究科の教育課程において、実験および実習の重視、技術者に必要な教養科目を配当し、現在まで実践している（資料1-2）。

そして、建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、「電機学校設立趣意書」に掲げている「技術で社会に貢献する人材の育成」を本学の使命とし、この三位一体を東京電機大学の礎として、教育・研究を展開している。

2007（平成19）年9月に学園創立100周年を迎え、同年から、各学部・各研究科に人材養成の目的および教育・研究上の目的の明確化、広く公表するための規程化について検討を開始し、2009（平成21）年度に「東京電機大学における人材養成に関する目的および教育研究上の目的に関する規程」を制定し、その内容を2010（平成22）年度には「学部規則・研究科規則」（資料1-3）に移行・施行し、各学部・各学科、各研究科・各専攻の人材養成に関する目的および教育研究上の目的を定めた。

2012（平成24）年度には、本学の掲げる主義や理念をより体現するために、「入学者受入の方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」（3つの方針（ポリシー））を定めて学内外へ広く周知している（資料1-4）。

また、2015（平成27）年度には、大学における「入学者受入の方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」（3つの方針（ポリシー））と、学部・研究科における「入学者受入の方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」（3つの方

針（ポリシー）との整合および平易な表現等を検討した。この改善過程で、2016（平成 28）年度より修正施行すべく、一部修正を行った（資料 1-5）。

本学は、学園創立以来、理論と実学を併せ持った社会に貢献できる視野の広い技術者の育成に努めてきた 100 年以上の歴史と伝統、卒業生の活躍と社会からの高い評価を受けてきた。一方で、科学技術の急速な発展、教育研究分野の先端化・細分化、少子高齢化等により社会環境の変化は急速に進んでいる。このような環境下においても、直面する諸課題を解決する能力を備え、日本の将来の発展に今後も不可欠な科学技術を担う「インテリジェントな技術者」を育成していくため、建学の精神、教育・研究理念および本学の使命を礎として、以下に示す学園創立 100 周年宣言（資料 1-6）を軸に 2009（平成 21）年 3 月に東京電機大学グランドデザイン（資料 1-7）を策定した。

さらに、2012（平成 24）年に学校法人東京電機大学将来構想企画委員会を設置し、20 年後の東京電機大学のあるべき姿について、東京電機大学グランドデザインをも踏まえ、輝き続ける東京電機大学の将来像について集中的に検討を重ね、2012（平成 24）年度に学校法人東京電機大学将来構想企画委員会答申（その 1・その 2）（資料 1-8）を策定した。その答申に基づき、2017（平成 29）年度全学的改編の実施および東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）の拡充を図る東京千住キャンパス第 2 期計画のアカデミックプラン等をまとめ、中長期計画を策定した（資料 1-9）。

そして、この東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）の拡充を図る東京電機大学第 2 期計画（新校舎の建設）を進め、2017（平成 29）年度には、新校舎の竣工、供用が開始となる予定である（資料 1-10）。

<学園創立 100 周年宣言>

1. 私たちは、技術の教育・研究を通し、社会に貢献する人材を育成します。
2. 私たちは、技術を通し、社会に貢献したい人のために学校を運営します。
3. 私たちは、学生・生徒を最優先に考え、優れた教育に価値をおきます。
4. 私たちは、学生・生徒が活気にあふれ、卒業生が活躍することを誇りとします。
5. 私たちは、時代をリードし社会が求める人材育成を目指し、常に変革します。

<東京電機大学グランドデザイン>

1. 教育

- ・基盤教育、初年次教育、基幹専門教育
- ・多様化教育への対応
- ・大学院教育
- ・工学部第二部の見直し
- ・女子学生、留学生の確保
- ・社会人教育の推進

2. 学生支援

- ・奨学制度の充実
- ・国際交流
- ・キャリア支援の充実

- ・キャンパス環境の整備・充実
- 3. 研究
 - ・研究支援体制の強化
 - ・外部資金の獲得
 - ・研究所の財政的自主運営
- 4. 産官学交流・地域交流
 - ・産官学連携の強化・地域連携の充実
- 5. 今後の組織・キャンパス構成等
 - ・教育組織
 - ・新分野の構築
 - ・キャンパス構成
 - ・安定的な学生の確保
 - ・東京電機大学の顔が見える広報

<「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」>

1. 理工系私立大学のトップを目指す
2. 全学的改編への対応：東京千住キャンパス I 街区活用 of アカデミックプランの具現化、*横型統合的教育への移行
3. 大学院の拡充整備
4. 学士課程と修士課程の*縦型統合的教育への移行
5. 社会人教育の充実
6. 研究推進・支援の実施
7. グローバル化の推進
8. 学生確保
9. 学生支援（就職含む）
10. キャンパス整備
11. 各キャンパスの施設設備の整備
12. 社会貢献

※「縦型統合的教育」：学士および修士におけるそれぞれの課程修了者の質を保証した計6年間にわたる各教育課程の教育。

「横型統合的教育」：学部・学科等、研究科・専攻の壁を超えて新たな分野・領域も教育に取り込む教育課程の教育。

<未来科学部>

未来科学部は、21世紀において人類の知的生産活動にふさわしい生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）の創造に必要な科学技術とそれを実社会に適用する能力を修得させることを教育理念としている。自らの問題を発見し、解決する能力（プロの能力）と広い視野と時代の方向性を見通すことのできる心の構え（豊かな教養）を併せ持つ技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、未来科学部における人材養成並びに教育研究上の目的に従い、未来科学部では学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラムを実現し、高度な専門技術者を養成するために、実験・実習科目および演習科目に重点を置いた教育課程を編成している。

また、学部共通教育科目として、一般教養科目を多数開講するほか、技術者としての倫理観を培う科目として、技術者倫理や関連法規、環境問題と科学技術の関わり等を学ぶことができる「技術者教養」の科目を配当している（資料 1-11 P. 34）。

＜工学部＞

工学部は、現代社会の基幹を成す科学技術分野において、過去から現代に至る「知」を継承し、さらに次世代に必要とされる新たな「知」と「技術」を創成し、安全で快適な社会の発展に貢献できる幅広い能力を培うことを教育理念としている。現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる科学技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、工学部における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、工学部では優秀な技術者として実社会で活躍できる人材を養成するために実験・実習科目および演習科目に重点を置いた教育課程を編成している。特に、1年次に「ワークショップ科目」を配当し、学年進行とともに、基礎から応用へ専門性を高めるため各学年に「実験科目」を配当することをカリキュラムの特色としている。また、学部共通教育科目として、一般教養科目を多数開講するほか、技術者としての倫理観を培う科目として、技術者倫理や関連法規、環境問題と科学技術の関わり等を学ぶことができる「技術者教養」の科目を配当している（資料 1-12 P. 36）。

＜工学部第二部＞

工学部第二部は、科学技術分野における「知」の継承と現代社会に必要とされる「技術」を展開することにより、現代社会が直面する問題を解決し、さらに進んで社会の発展に寄与することのできる確かな能力を培うことを教育理念としている。現代社会において必要とされる科学技術とその進展に貢献するための実践的技術者を養成しつつ、夜間学部として社会人教育を推進することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、工学部第二部における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、工学部第二部では実践的な技術者を養成するために実験・実習科目および演習科目に重点を置いた教育課程を編成している。特に、2年次以降、学年が進行するにつれて、基礎から応用へ専門性を高めるための「実験科目」、学生と教員がともに教室で討論を行う「演習科目」を配当することをカリキュラムの特色としている。

また、学部共通教育科目として、一般教養科目を多数開講するほか、技術者としての倫理観を培う科目として、技術者倫理や関連法規、環境問題と科学技術の関わり等を学ぶことができる「技術者教養」の科目を配当している（資料 1-13 P. 34）。

＜理工学部＞

理工学部は、「人間性豊かな社会人の育成」と「未来型科学技術者の養成」を教育理念としている。理学・工学・情報・生命それぞれの教育研究分野の相乗的融合を図ることにより、倫理性・コミュニケーション能力を備えた人材を育成するとともに、創造的かつ自由な発想と自立性を有する科学技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、理工学部における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、理工学部では、創造性豊かな技術者、幅広い専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するために、実験・実習科目および演習科目に重点を置いた教育課程を編成している。特に、将来の方向性の選定に柔軟に対応するための学際性に富んだ教育研究システムである「学系・コース制」教育（5学系・15コース）を導入したことにより、専門性を高めることのみならず、多様な領域に亘る視野と見識を養成することを可能としている。

さらに、多様化する科学技術分野に柔軟に対応できる「主コース制・副コース制」を特徴としたカリキュラムを編成し、一般教養科目を多数開講するほか、専門職業人並びに技術者として倫理観を培う科目として、「倫理学」「技術者倫理」「日本の文化と倫理」「仕事と職業」等の科目を配当している（資料 1-14 P.126）。

＜情報環境学部＞

情報環境学部は、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成することを教育理念としている。個々の学生がそれぞれの能力に応じ、それぞれの興味・関心を伸ばす「個別重視型教育」を通じて、将来に亘って情報技術の変遷に適応し、社会に貢献する能力を備えるための基礎学力と、本質を理解して広い視野に立つて自らの進むべき方向を判断・選択する基礎能力を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、情報環境学部における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、情報環境学部では、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成するために、実験・実習科目および演習科目に重点をおいた教育課程を編成している。特に、プロジェクト形式で幾つかの専門分野に関連する専門知識の吸収と実際の経験を積むことを目的とし、実学としての工学を身に付けることができる「演習・プロジェクト科目」をカリキュラムの特徴としている。

さらに、この科目を通して企業等から提案される多くの課題を個人あるいはグループで解決することを通して、実社会の問題に触れることにより、将来技術者になる上で貴重な体験ができる。

また、一般教養科目を多数開講するほか、情報倫理上の基礎技術を理解し、情報技術者に必要な倫理性を培うことを目的とする科目として、「情報倫理と技術者倫理」を配当している（資料 1-15 P. 29-30, 33, 36, 39）。

＜先端科学技術研究科（博士課程（後期））＞

先端科学技術研究科は、修士課程で養った科学技術に関する専門知識と研究能力を基礎にして、広い視野と国際性を身につけ、自立して研究活動を行うに足りる高度な研究能力を修得させることを教育理念としている。創造性豊かな研究開発能力を持ち、社会の多様な場において中核となって活躍可能な研究者および確かな教育能力と研究遂行能力を兼ね備えた大学教員を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、先端科学技術研究科における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、先端科学技術研究科では、博士の学位にふさわしい広範な学術的素養を得るために、「輪講」「セミナー」「演習」等の科目が配当され、指導教員から直接研究指導を受けながら研究活動を行い、研究能力の発展を図るカリキュラムを編成している（資料 1-16 P. 20, 32, 43, 53, 64, 74, 82, 92）。

＜未来科学研究科（修士課程）＞

未来科学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発およびそれを展開する能力を修得させることを教育理念としている。人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生することができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、未来科学研究科における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、未来科学研究科では、基礎となる未来科学部における教育・研究をさらに発展させ、高度な専門知識の修得と来るべき未来社会の変化に対応できる広い視野を持ち、未来の生活空間をデザインする豊かな教養を持った高度専門技術者の育成を図るために、「専門研究」「各専攻部門専門科目」「専攻共通科目」「研究科共通科目」のほか、建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻の3専攻の分野を融合する科目を「豊かな教養科目」として配当することで、異分野の技術の考え方を理解し、かつ俯瞰的な視野を有する技術者を育成することができるカリキュラムを編成している（資料 1-17 P. 15-16, 23, 29）。

＜工学研究科（修士課程）＞

工学研究科は、学部教育で養った科学技術分野に関する知識を基礎とし、さらに幅広く深い学識の涵養を図り、科学技術分野における研究能力および高度の専門性を要する職業等に必要な卓越した能力を培うことを教育理念としている。確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる研究者および高度科学技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、工学研究科における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、工学研究科では、高度科学技術者としての基礎能力・高度専門知識を修得するために、工学部・工学部第二部の専門学力を基礎として、さらに進んだ高

度な専門知識の修得と科学技術の進歩に対応できる思考力、応用力を備えた技術者および研究者の育成を図るための教育課程を編成している。「特別研究」「特別演習」「グループ輪講」「全体輪講」等の科目を配当し、専門知識に裏付けされた応用力の涵養と修士論文作成や論文発表の手法を修得させることにより、実践的な科学技術者を育成することをカリキュラム編成の特色としている（資料 1-18 P. 15, 21, 27, 33, 41, 47）。

＜理工学研究科（修士課程）＞

理工学研究科は、急速に進化する科学技術と多様化する価値観に対応できる高度専門科学技術者・職業人を養成し、理工学の専門分野における基礎力を強化するとともに、専門の教育・研究を通して他分野を俯瞰できる視野の広い科学技術者・職業人の育成に努めることを教育理念としている。知識を集積するだけでなく、問題意識を持ち、自ら考え、問題解決能力、応用力を養う教育を実践し、創造性豊かな人材を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、理工学研究科における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、理工学研究科では、学際的な研究の進め方を多角的な視野から学ぶ科目「理工学特論」、マネジメント能力を養成するための基礎科目「MOT 概論」「MOE 概論」、医学・福祉・環境・生活等幅広い範囲に活用される医用生体工学の最新動向を探る科目「バイオメディカル・エンジニアリング概論」等をカリキュラムの特色としている（資料 1-19 P. 100）。

＜情報環境学研究科（修士課程）＞

情報環境学研究科は、自主・自立の精神と国際化対応力、創造力豊かで独創性を兼ね備えた人材を育成するという情報環境学部の理念を継承しつつ、情報環境という学問分野の観点から、高度な情報技術に関する専門知識を修得し、研究能力を育成することを教育理念としている。情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21 世紀に活躍できる情報に関する高度専門技術者を養成することを人材養成並びに教育研究上の目的としている。

建学の精神および教育・研究理念、情報環境学研究科における人材養成並びに教育研究上の目的を踏まえ、情報環境学研究科では、国際化の対応力を身につけるための「国際技術者英語」、5つの研究部門に配当された高度な専門技術の修得のための「専門科目」、独創性・創造性・起業家マインドを醸成するためのプロジェクト科目としての「情報環境学研究科目」をカリキュラム編成における特色としている。特に、「情報環境学研究科目」は、創造力ある技術者を養成するための演習として、自ら設定した課題、企業あるいは教員から与えられた課題について、想像性に富んだ解決策を考案し、それを実際に試作して、その実用性を評価している（資料 1-20 P. 33-34）。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

<大学全体><学部><研究科>

大学、学部および研究科の理念・目的は、「大学案内」（資料 1-21 P. 3, 27, 41, 67, 89, 101）、「大学院案内」（資料 1-22 P. 11, 17, 27, 35, 39）、「学生要覧」（資料 1-11 P. 24-25、1-12 P. 26-28、1-13 P. 26-28、1-14 P. 01-03、1-15 P. 3-5、1-16 P. 2、1-17 P. 10、1-18 P. 10、1-19 P. 8-9、1-20 P. 3-4）、「大学ウェブサイト」（資料 1-1, 1-2）、「アニュアルレポート」（学園活動の概況）（資料 1-23）を通して大学構成員および社会に対して周知を図っている。

また、全学部共通に 1 年次科目として「東京電機大学で学ぶ」（資料 1-24）を開講し、理事長、学長、本学教員、卒業生、外部講師がオムニバス形式で、技術者として大学で学修する心構えや建学の精神や教育・研究の理念等について講義し、在学生に周知を図っている。

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

<大学全体><学部><研究科>

本学が創立以来辿ってきた歴史的社会的背景を踏まえ、教育・研究理念と目的および社会的使命に基づいて、本学の教育研究に係る改善方策の策定とその実現を目的として、1992（平成 4）年に「東京電機大学自己評価等に関する大綱」（資料 1-25）を施行し、その改善等を行うための機関として「東京電機大学自己評価総合委員会」（資料 1-26）を設置し、毎年作成する自己点検・評価報告書に基づき定期的に検証を行っている。

教育については、前述の「東京電機大学自己評価総合委員会」とは別に、2011（平成 23）年度に設置した「教育改善推進室」（資料 1-27）によって、教育課程全般に係る PDCA 体制が整備され、本学の理念等や 3 つの方針（ポリシー）に従った点検評価活動を行っている。

2013（平成 25）年度には、外部有識者を招聘し、本学の教育活動に係る外部評価を実施し、概ね適切に教育活動を実施している旨評価を得た。一方で、外部評価員からの忌憚のないコメント等の指摘事項については、適宜改善対応を図っている（資料 1-28）。

また、2014（平成 26）年度からは、本学名誉教授等を中心とし、「自己評価総合委員会」の下に「点検評価チーム」（資料 1-29）を設置し、本学の教育に係る自己点検・評価活動について第三者チェックを実施した。点検評価チームから指摘のあった各事項については、引き続き改善対応を図るよう学部・研究科にフィードバックを掛け、対応を図っている（資料 1-30）。

さらに、2015（平成 27）年度には、「自己評価総合委員会」の下に設置した「点検評価チーム」の継続的活動に加えて、認証評価担当学長補佐を中心とした「認証評価

実行チーム」を設置した。認証評価実行チームは、2016（平成 28）年度受審する大学基準協会の大学認証評価のプロジェクトチームとも位置付けており、大学認証評価の受審を通して大学全体の改善・改革に資するフィードバックを進めて行く。

2. 点検・評価

●基準 1 の充足状況

大学等における理念・目的の設定、周知、検証の活動について、「1. 現状の説明」に記載のとおり、同基準を満たしている。

①効果が上がっている事項

「実学尊重」、「技術は人なり」「技術で社会に貢献する人材の育成」に基づいた、実験・実習を重視した教育の実践によって、学園創立以来約 21 万人以上の卒業生を社会へ輩出している。これまでの高い就職率の実績および卒業生アンケートによる就職満足度（資料 1-31）から教育・研究理念に基づいた「技術で社会に貢献する人材を育成する大学」としての地位を確立している。

また、建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」を、常に時代に即して理解、尊重、堅持し、輝き続ける東京電機大学の実現ため、2014（平成 26）年度から 2023（平成 35）年度までの 10 年間を目途とする中長期計画を策定した。

②改善すべき事項

なし

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

中長期計画の具現化を推進していく中で、本学の教育・研究理念に基づきながら、急速な社会の変化等へ確かな対応ができる学生を育成すべく、学長を委員長とする自己評価総合委員会において、適宜時代に合致した建学の精神および教育・研究理念を検証していく。

②改善すべき事項

なし

4. 根拠資料

- 1-1 大学ウェブサイト 創設理念
<http://web.dendai.ac.jp/about/hojin/founder.html>
- 1-2 大学ウェブサイト 建学の精神と教育・研究理念
<http://web.dendai.ac.jp/about/mission/>
- 1-3-1 東京電機大学学則
- 1-3-2 東京電機大学未来科学部規則
- 1-3-3 東京電機大学工学部規則

- 1-3-4 東京電機大学工学部第二部規則
- 1-3-5 東京電機大学理工学部規則
- 1-3-6 東京電機大学情報環境学部規則
- 1-3-7 東京電機大学大学院学則
- 1-3-8 東京電機大学大学院先端科学技術研究科規則
- 1-3-9 東京電機大学大学院未来科学研究科規則
- 1-3-10 東京電機大学大学院工学研究科規則
- 1-3-11 東京電機大学大学院理工学研究科規則
- 1-3-12 東京電機大学大学院情報環境学研究科規則
- 1-4 大学ウェブサイト 東京電機大学の3つのポリシー
http://web.dendai.ac.jp/about/mission/TDU_policy.html
- 1-5 2016（平成28）年度 大学院の「入学者受入の方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」（3つの方針（ポリシー））
- 1-6 大学ウェブサイト 学園創立100周年宣言
<http://web.dendai.ac.jp/about/hojin/100nen.html>
- 1-7 東京電機大学グランドデザイン
- 1-8-1 学校法人東京電機大学将来構想企画委員会答申（その1）
- 1-8-2 学校法人東京電機大学将来構想企画委員会答申（その2）
- 1-9 学校法人東京電機大学中長期計画 ～TDU Vision 2023～
- 1-10 東京電機大学東京千住キャンパス第2期計画（I街区建物）建設工事
- 1-11 2015 学生要覧（東京電機大学未来科学部）
- 1-12 2015 学生要覧（東京電機大学工学部）
- 1-13 2015 学生要覧（東京電機大学工学部第二部）
- 1-14 2015 学生要覧（東京電機大学理工学部）
- 1-15 2015 学生要覧（東京電機大学情報環境学部）
- 1-16 2015 学生要覧（東京電機大学大学院先端科学技術研究科）
- 1-17 2015 学生要覧（東京電機大学大学院未来科学研究科）
- 1-18 2015 学生要覧（東京電機大学大学院工学研究科）
- 1-19 2015 学生要覧（東京電機大学大学院理工学研究科）
- 1-20 2015 学生要覧（東京電機大学大学院情報環境学研究科）
- 1-21 2015 大学案内（東京電機大学）
- 1-22 2015 大学院案内（東京電機大学大学院）
- 1-23 アニュアルレポート2015（東京電機大学）
- 1-24 「東京電機大学で学ぶ」シラバス
- 1-25 東京電機大学自己評価等に関する大綱
- 1-26 平成27年度東京電機大学自己評価総合委員会構成員
- 1-27 教育改善推進室の事務分掌内規
- 1-28 外部評価受審について（総括報告）
- 1-29 （平成26年度を踏まえた）平成27年度自己点検・評価報告書の点検評価チームについて

- 1-30 自己点検・評価報告書 第4章「教育内容・方法・成果」の点検評価結果のまとめ
- 1-31 平成26年度卒業式アンケート分析－総括版－